



ぴっぴだより

No.2 2022.4.27

新年度、泣きながらお母さんやお父さんと別れる子どもたちを見ていると、私の幼い頃の思い出と、長男がぴっぴに入った頃の思い出がよみがえってきます。

私は三姉妹の末っ子で、とにかく泣き虫。(家族の中でのあだ名は『メソポタミア』でした。社会の歴史の授業で、「メソポタミア文明」という言葉を聞いたとき、妙な親近感を覚えました。)姉たちに可愛がられ、泣くとすぐに「よしよし」「さーちゃんは小さいから仕方ないね。」と、甘やかされていたような記憶があります。

保育園の頃は、忘れ物をすると涙。縦割り保育がある日には涙。折り紙の折り方がわからなくなると涙。食べられない給食があると涙。とにかく、しつこいくらいによく涙を流していました。担任の先生は、そんな私のことを理解し、うまい具合に寄り添ってくださいました。担任の先生が不在の時になると、別の臨時の先生がきて、よく困らせていたようです。理由も言わず(言えず)に泣き続ける私に、先生は「泣く子は嫌いです」と言いました。そして、私は保育園の誰もいない広いお遊戯室の端っこでしくしく、しくしく声をあげずに泣いていました。幼児期の記憶は、数少ないのですが、この記憶は今でも私の中にあります。しかし、「マイナス」だと思っていたこの記憶が、ぴっぴに出会った頃から、私の中で変化していきました。

**ありのまま なき虫さん あまえんぼさん… そのまんまでいいよ 子どもも大人も
ありのままて きてください すべてはそこから 始まります**

ぴっぴのパンフレットのはじめの一文です。まるで、私に向けているような、この文章。泣くことを許してもらえなかったあの時、自分はいけない子どもだと思ってしまった。けれど、保育者、母になった今は、子どもの涙こそ、言葉にならない言葉だと思えるようになりました。涙だけではなく、手が出る、噛みつく、動かなくなる、棒を振り回す… 子どもの行動、すべてが声にならない言葉だとしたら、周りにいる私はそれを機微に感じ、受け止めていける人でありたいと思っています。

長男がぴっぴに入った頃は毎日毎日、涙の登園。「泣かない日が珍しい」というくらい、どんぐり、まつぼっくりの2年間泣きながら通いました。(泣きながらでしたが、まつぼっくりの頃は、お休みゼロ!) そんな長男も春から5年生。先日、「担任の先生と合わない。」と言って、朝食を食べながらぼろぼろと涙を流したのです。

4月、新しいクラスになって、難なく暮らしているように見えてましたが、心の中にはいろいろ抱えていたようです。朝の忙しい時間ではありましたが、時間の許す限りで長男の話を聞き、私「泣けてよかった。吐き出せてよかったね。」と言うと、長男「けど、ぼくには仲間がいる。」と一言。紺色のすこし小さくなったランドセルを背負って意気揚々と登校していきました。びっぴの頃も、5年生になった今も、涙を出して発散する！というのは変わらないなあ。と感じ、幼いころの私と重ね合わせていました。

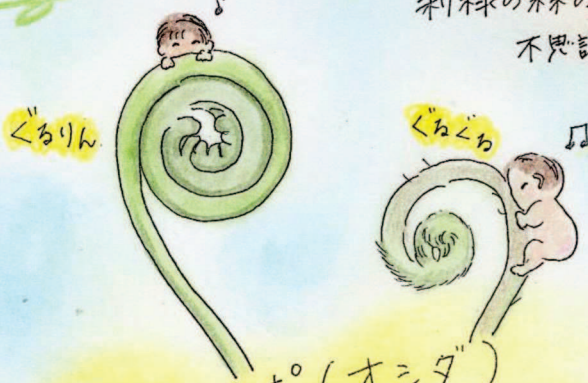
新年度、おおきくなったことを喜んでいる人もいれば、戸惑っているような人もいます。この春の変化を、それぞれの子どもの力で、やり方で、どうか乗り越えられますように！と、願っています。

：中村沙耶香



森林のいきもの子育てばなし 5月

新緑の森の地面の近くでこんなくるくるとした不思議な光景をみかけたことはありませんか？



これはシダ(羊歯)の葉が開く前の姿で、様々な種類があり、おしり(お尻)のつくりが違います。(山菜のユズミ、ゼンマイなどはとも) こどもたちとはぐるりんしほ(葉がひらいた様子を「せ!」、たなえていてみつけるのを楽しんでます。今月はそのシダの中でも軽井沢でよくみられるオシダの子育て(世代交代)の様子

ぐるりんしほ(オシダ)の子育て 世代交代

をお話していきまーす。(葉口恵)

① 1はしほの赤ちゃんたち。寒い冬は小さくたなえて身をやせあて...



② 5月になると茶色の服をぬぎぐるんぐるん..によきにょき~!

ママ... アー! オマエマデ! チカチカ ガンバリサイ~ (たなともおもしろい姿です) と赤ちゃんたちが成長してきます。



そしてお母さんたちの葉は冬を越し、赤ちゃんたちに栄養を運び、一人前まで育てあげると地面にとけ、枯れてはたなえていくのです...

③ すくすくのびた若い葉は夏の森で涼やかな姿(北斜面に多い)



たくさん君羊れていると恐竜時代(?)のようです。

④ 秋になると葉の中心におちり、落ち葉をため、赤ちゃんたちの布団に。落ち葉の下では①の赤ちゃんたちが春までねかいます。そしてまたくり返し...



厚さ10cm(ほど)の落ち葉の布団

地面にたんたん横たわり長い冬をすごします。

たんたんはたけ



田んぼと畑たより

先週(4/21) おおきいくみのみんなでお米の種まきをしました。種は、去年収穫したぴっぴのお米です。もみのまま保存しておいたものを、4月始めごろから水につけて、芽出しします。毎日水をかえ、種まきの3日前くらいから今度はあたためます。

もうすぐ田んぼに還るお米は、少しずつ食べるお米から種へ変化していきます。

ポチッと白い芽が出たら種への変身完了です。

その種を前に、学年ごとに「順番に集まって、えりさんの話をきいてから、3~4人ずつ1枚の苗箱を囲みます。まずは土を入れて平らにならして、ジョーロで水をかけ、種をまいてその上に土をかけそのまた上にもみ殻燻炭(お米のもみ殻を炭にしたもの)をまいて水をかけて。

最後に「大きくなりますように」「おいしくなりますように」... それぞれおまじないもかけて作業はおしまい。

あとは思い思いの花をつんだり、田んぼでどろどろにたったり走りまわったり、水路でセリをつんだり。「またやるー」と種まきにまた来てくれたり、カエルや虫をつかまえたり...

気持ちのよい空気に包まれながら。

今年もお米づくり、スタートしました！